

千葉県の水道事業の現状と 課題解決に向けた取組

令和6年12月23日

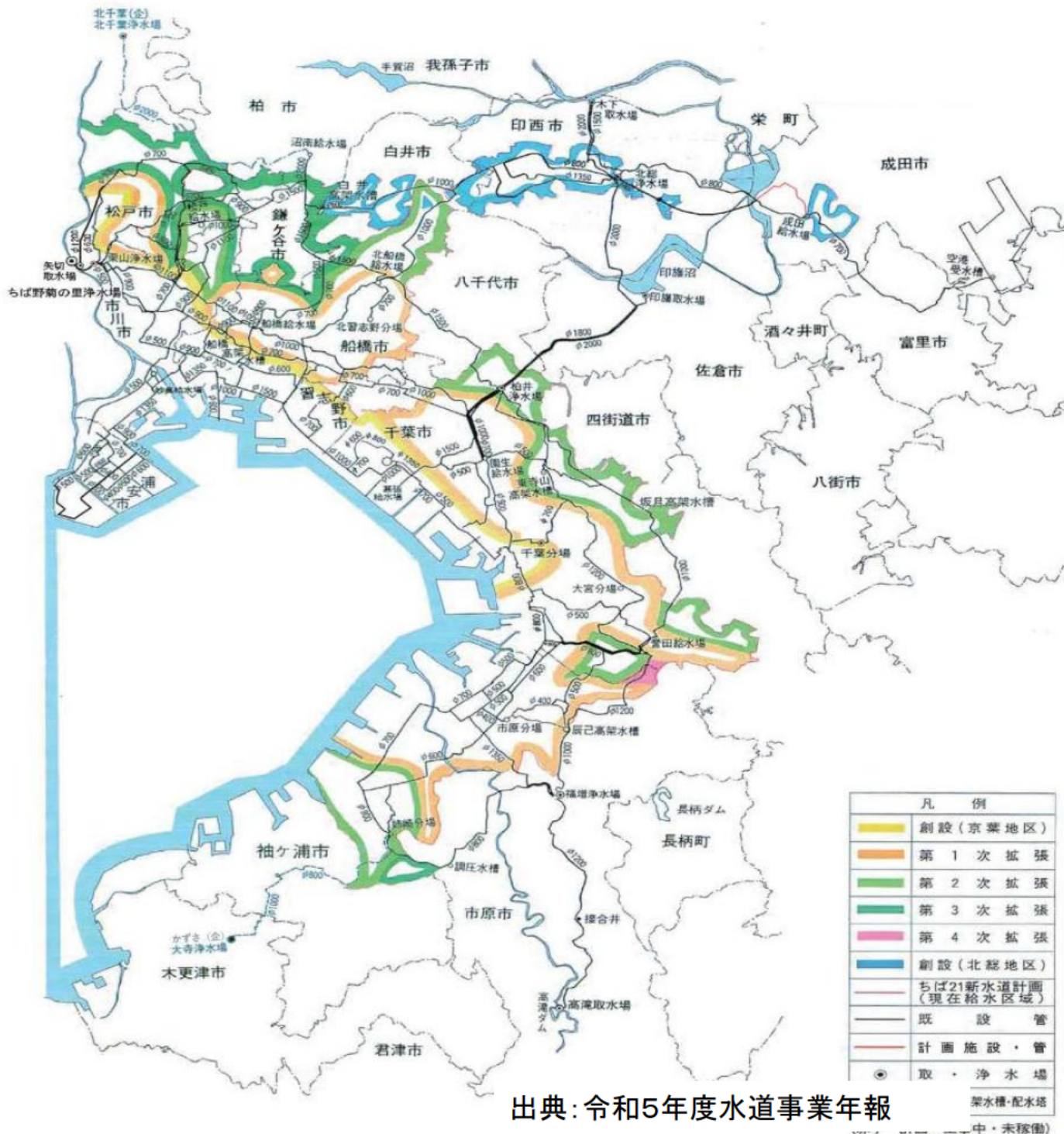
千葉県知事 熊谷 俊人

取組①

県営水道の料金値上げ

千葉県営水道の概要

○千葉県営水道概要図



出典：令和5年度水道事業年報

○昭和9年 県営水道事業を創設
昭和11年 千葉市内へ給水開始

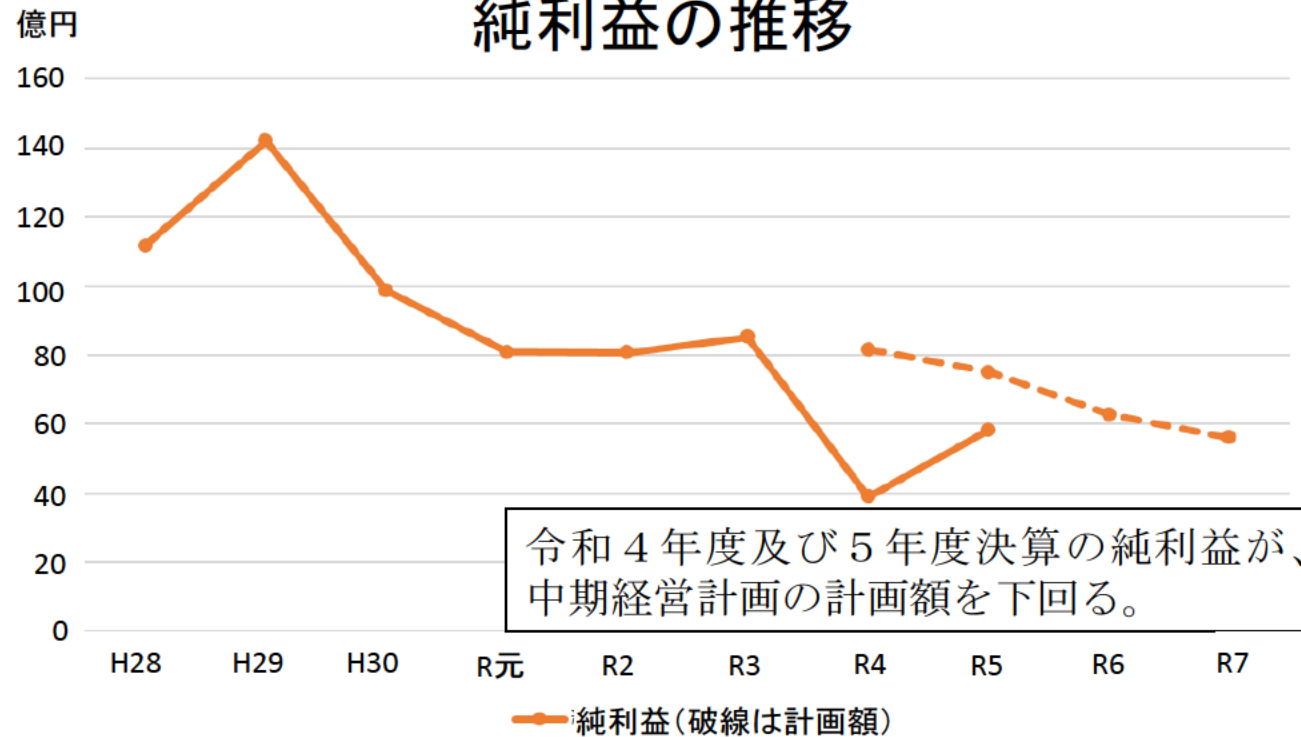
○京葉臨海工業地帯の開発
都市化の進展と人口の急増
成田国際空港の開港 等
県勢発展を受け事業拡張



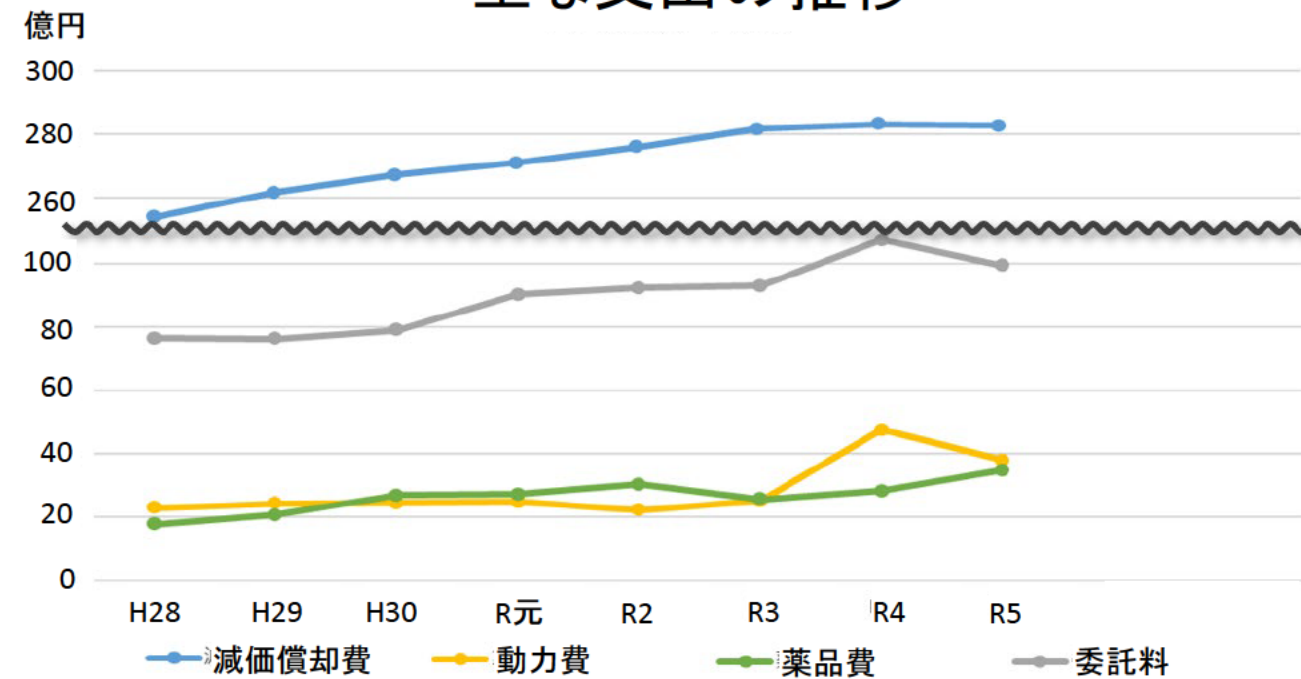
○県北西部の約308万人に
水道水を供給
(全国3番目の規模)

千葉県営水道の現状と課題

純利益の推移



主な支出の推移



【現状】

- 物価の高騰が経営を圧迫
- 高度経済成長期に整備した施設や管路が一斉に更新時期を迎える
- 自然災害の頻発化・激甚化



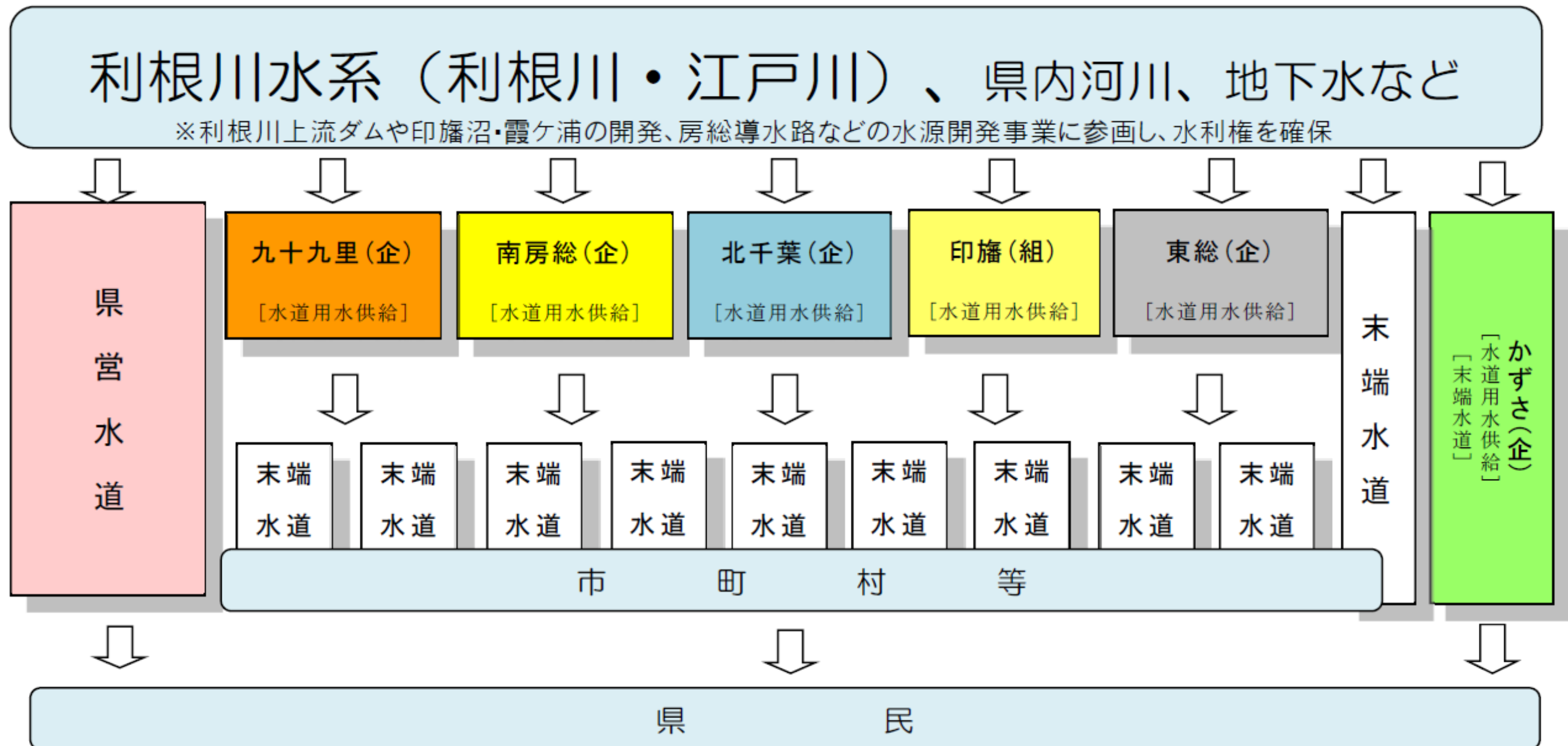
安定給水のため、財務基盤を強化し、施設や管路の更新・耐震化を着実に推進していく必要

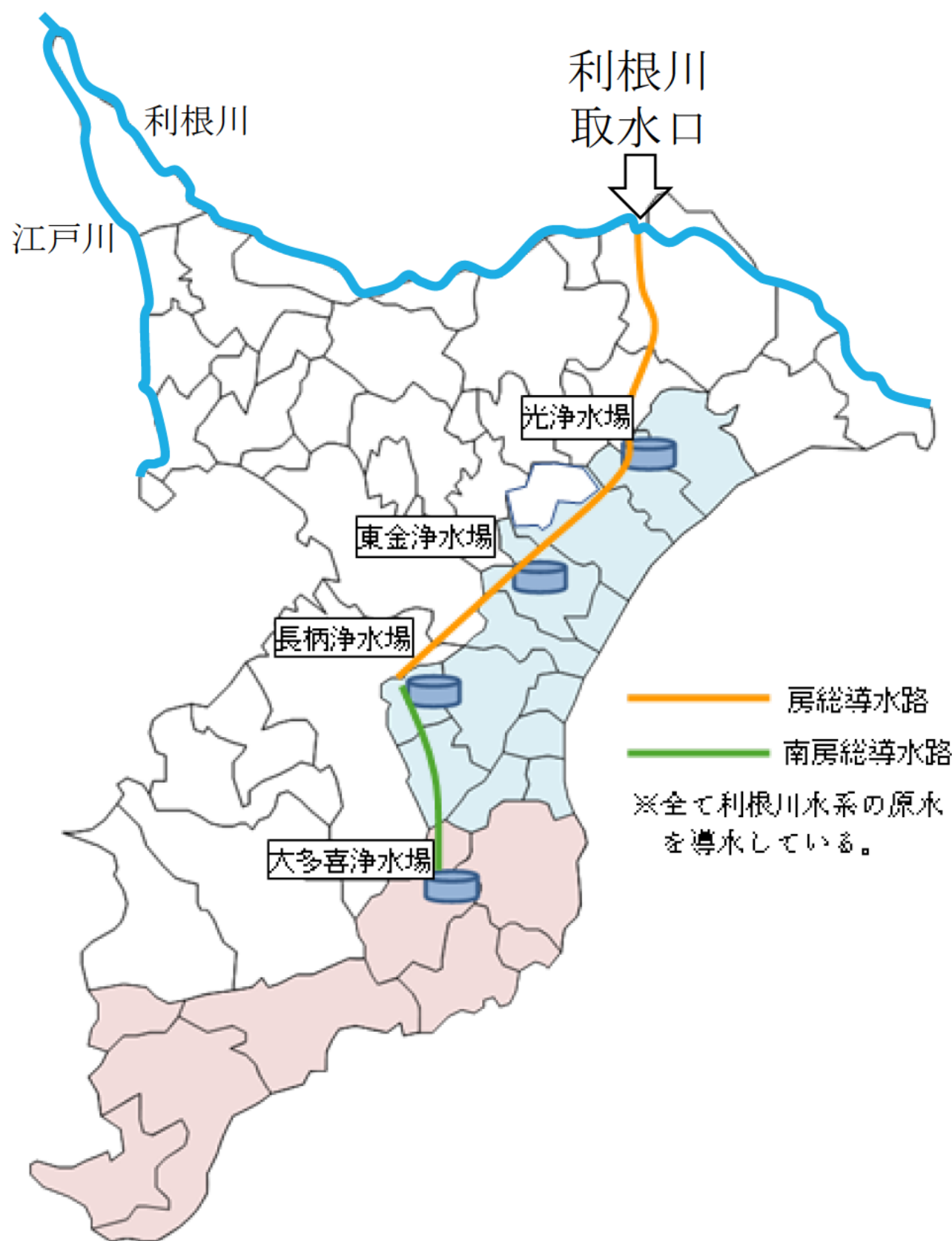
《料金改定の概要》

- 改定率(値上げ幅)：20パーセント程度
- 改定時期：令和8年度を想定

取組②
水道用水供給事業の
統合・広域連携
～リーディングケース～

県内水道事業体の現状





九十九里地域と南房総地域 2地域の用水供給事業を統合

九十九里地域
水道企業団
構成 13 市町村

統 合

南房総広域
水道企業団
構成 8 市町

県企業局が経営
(新たに用水供給部門を設置)

【検討経緯】

平成22年度 検討開始

令和 2年度 準備会議 設置

令和 4年度 統合協議会 設置

令和 6年度 統合基本協定 締結(予定)

令和 8年度 統合(予定)

九十九里地域と南房総地域の水道用水供給事業体と県営水道との統合③

取組・措置

効果：将来にわたる安定給水の維持

施設

計画的な更新、耐震化を実施

総事業費約765億円
(統合後20年間)

施設の有効活用・集約化の検討

**地震・事故等による
断水リスクの低減**

	浄水施設の耐震化率		管路の耐震適合率	
	R4年度末	R27年度末	R4年度末	R27年度末
九十九里地域	55.4%	88.1%	78.3%	100.0%
南房総地域	100.0%	耐震化済	95.0%	97.5%

組織体制

県企業局に「用水供給部」新設

- ・ 県による技術職員の一括採用
- ・ 県営水道のノウハウ共有

**技術職員数や技術力の確保
老朽化対策や耐震化の着実な実施**

水道用水
供給料金

水道用水供給料金の上昇を抑制

- ・ 国交付金の活用
- ・ 県・市町村の財政措置

**健全経営の維持
水道用水供給料金の上昇幅の抑制**

(統合後10年間の料金抑制額▲44億円)
(統合しない場合と比較した見込額)

取組③ 千葉市営水道との 広域連携

県と市が連携して、広域的な視点から課題の解決を図る



【千葉市との広域連携】

○リーディングケースの統合によって
県企業局の施設となる予定の
長柄浄水場から第三者委託により、
千葉市営水道に送水を検討

○詳細な条件等は今後、協議

【効果】

千葉県：長柄浄水場の稼働率が向上
用水供給料金の上昇抑制

千葉市：保有する未活用水源の活用
老朽化した市営施設の廃止

今後の取組・課題

◎料金値上げや統合・広域連携に係る地域や水道利用者の理解

◎技術職員の不足



水道事業の特性に応じたデジタル技術の開発や普及、
導入の支援を積極的に実施していくべき